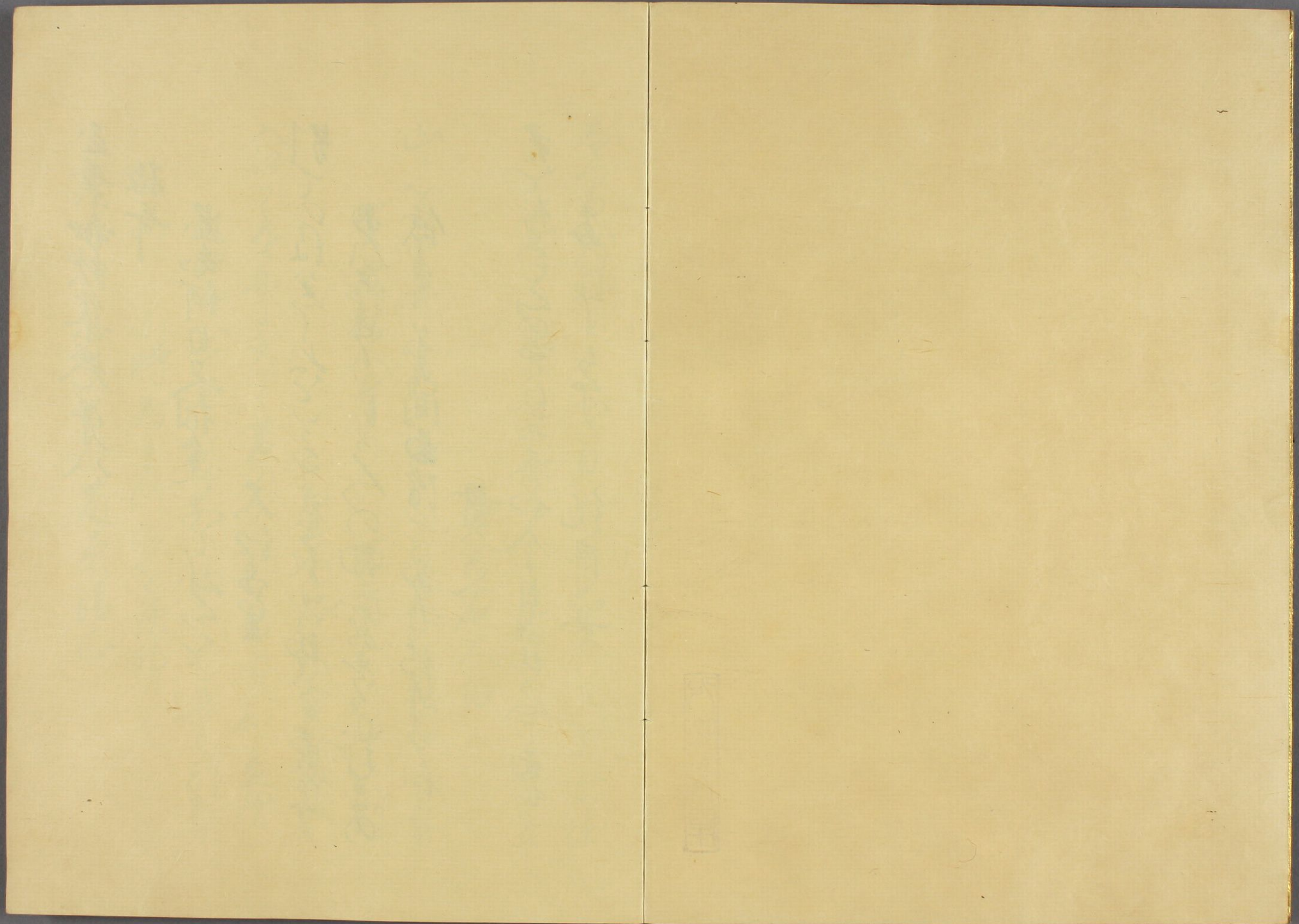


玉葉和歌集中







玉葉和歌集卷第八

振奇

不知何日又相逢

大江山里

別ての夜さゆねとつゝあんなに思ふはゆきもあはれ
あひまきりけり人の物もあはれふし
餓もあつたゆきもあはれ

貫之

君とわかれぬのさびしき今日もゆきもあはれ
あつたゆきもあはれ

紀廊女

あつたゆきもあはれ今日もゆきもあはれ

あつたゆきもあはれ今日もゆきもあはれ

徳倉右大臣

あつたゆきもあはれ今日もゆきもあはれ

皇太后の御成

あつたゆきもあはれ今日もゆきもあはれ

友原清正

と秋をひて今もあつむ時を別と行む秋をひて
くめりしよりいほしくうれよつきてもあつむ
ふ契しみるれあつむたふたつをせ
て約けつせよよ 西行法師

ねむらんをいほむやひるよ別あつむよあつむ
んらんをよ約けつは徳宣朝臣よつり

けつ

重之

わらわといふあつむいほむらんあつむとあつむ
別心と 宗超法師

約むらん命をいほむあつむは徳宣朝臣よ別と限を思

前中納言定家

けつあつむをいほむあつむ出そは月とあつむ神のよれ
義平五年十二月く約けつは徳宣朝臣
系親感^新あつむ約けつあつむ

源忠朝

わらわといふあつむあつむいほむあつむとあつむ
和泉式部丹後よ下けつあつむあつむ
あつむあつむあつむあつむあつむ
あつむあつむあつむあつむあつむ
あつむあつむあつむあつむあつむ

上東門院

秋をひて今もあつむ時を別と行む秋をひて

平維正朝臣持津國よみあてにやを
つとぬそと申して物あるをさるるふ申つらけ

平忠彦宛下

わきのやうふりきり別後いゆとゆは家い
遠き國まうらんそと申してさうあり
くゆしてさうか行きて方あそふゆ
けつつくふ 刑の頼補

ゆいさいあそふのこいけいり別ふらと
有京資澄朝臣志やゆあは淡路の宮
けつ小扇つらき中し志こぬ扇の

くはまふあつけ侍き

前代書来巻惟方

うりさそふおみとらり繪巻とこはらそ
あふ人の書巻へあけつとあはぬ実そ
送らそと

あ中細云直房

限り御進八重の心強とて御もく
女ともあられ物へあひきりきり
しけり 安土門院大貳

からすいながらのれい
別の心と 費

わさよゆくと行むとと来りなきさるるは我ゆ
小一條たふれ人願はゆるる時あまふ
女は櫛の物鏡をくをりてゆるるに後て
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

別て今日より後玉うけあけし道もさるる
あつたよ又はたゆるる世とそむきて都
いふこととなくみけりけりけりけりけり

西行法師

あまふいふとくもふも物といふ教の思はれあふ
むらさき

あまふ烟のあまふもくくり見よ月さるる
そらよのさるる田井よのりてわは様をいふ
むらさきとりてふもさるるいふ事せしを
きつては梅の院河原
是月乃山松のむらさきとわらわとわらわと
百もさるる中は 式子月親王
あまふいふとくもふも物といふ教の思はれあふ
むらさき

皇太后宮女中後成

あまふいふとくもふも物といふ教の思はれあふ
むらさき

正三位知家

此の家吹く山風よすすゆりるるまはる多し人
むとさうりてうらよませしを給けりよまはる
孫とふりよと 永福門院内侍

御宿りも孫たりみし孫よ都へゆふふつにま
配可くそ御宿とさうてよとゆりり

前権少僧都全真

うまほしめり孫まふまはりしものう孫よまはる
羈中見花と云と云と

あ中納言定家

うらまらうれ世のまはるそゆ末々しき孫人
宇津のふよと 中務之宗并親王
ありのまきとても孫葉て本陰知るうらの心越
あつまふみまらふ小野路とてふあうと日書
こつとて何あはるうらそまきけまこ

安赤の院中條

うらまらうれとふ神おまてゆらまらまきと孫孫孫
たあーたあーと川とらけりつふまはる
人のまらりてとてえて骨いとゆらとま
あはるひけまこ

後人（と）みかりんともふおきて約らう海とやとらう
正治二年百（と）うまひける所後（と）

臣秋の代母後

新（と）月我の（と）を（と）山（と）路（と）を（と）道（と）部（と）の（と）女（と）よ（と）き（と）せ
ね（と）り（と）ん（と）と 後（と）之（と）位（と）為（と）實（と）

お（と）改（と）や（と）し（と）ま（と）宮（と）階（と）も（と）新（と）や（と）ふ（と）れ（と）神（と）氏（と）と（と）め（と）ら（と）松（と）の（と）下（と）路
弘（と）長（と）之（と）の（と）九（と）月（と）十（と）三（と）夜（と）内（と）裏（と）十（と）首（と）中（と）に

月前後行 後二位新家

こ（と）え（と）や（と）せん（と）新（と）い（と）ふ（と）く（と）も（と）お（と）改（と）の（と）名（と）れ（と）ね（と）ま（と）し（と）月（と）を（と）改（と）
あ（と）ら（と）ま（と）へ（と）下（と）ら（と）し（と）約（と）き（と）ら（と）し（と）相（と）改（と）み（と）く

前奉紙能清

お（と）改（と）乃（と）雲（と）れ（と）あ（と）く（と）る（と）志（と）の（と）め（と）部（と）乃（と）そ（と）月（と）を（と）改（と）
と（と）と（と）と（と）あ（と）よ（と）約（と）け（と）り（と）所（と）部（と）れ（と）ん（と）よ（と）し（と）ひ（と）ら（と）し（と）

平康頼

と（と）ひ（と）や（と）ま（と）と（と）う（と）し（と）と（と）お（と）改（と）み（と）も（と）た（と）ん（と）と（と）ゆ（と）ら（と）し（と）ま（と）い（と）ひ（と）ら（と）し（と）
秋（と）お（と）へ（と）み（と）け（と）ら（と）た（と）み（と）く（と）し（と）よ（と）み（と）約（と）け（と）り（と）

友承清正

後（と）ね（と）く（と）物（と）さ（と）ふ（と）れ（と）に（と）秋（と）の（と）新（と）れ（と）立（と）の（と）月（と）を（と）改（と）し（と）け（と）り（と）
百（と）そ（と）う（と）ち（と）な（と）り（と）し（と）中（と）に（と）夜（と）後（と）

あ久細言為意

とゆふに宿と月ふあつて何とたゆふは接人

接人として 大宰大貳後意

ゆふに宿と月ふあつて何とたゆふは接人

中原師宗約下

宿と月ふあつて何とたゆふは接人

平家時

宿と月ふあつて何とたゆふは接人

た道中約為友

宿と月ふあつて何とたゆふは接人

約為友として 平宗宣朝臣

宿と月ふあつて何とたゆふは接人

約為友として 二条院権大納言曲侍

宿と月ふあつて何とたゆふは接人

約為友として 二条院親王性助

宿と月ふあつて何とたゆふは接人

約為友として 中院入道前内大臣

宿と月ふあつて何とたゆふは接人

約為友として 丹波長曲約下

宿と月ふあつて何とたゆふは接人

澄江一竹々此月乃わく竹々いりあよと小遊
竹々人と思せく 人僧正行等

月影そ青此夜は海よりきりきりぬみちふと為さけり
修江一竹げりふ人等よと

前権僧正教範

時多うと山末晴やして雲乃く中々岩樹のり
後法性寺入道お開白右大臣よ竹々う時よ
ませ竹々う百々方中しに接のんよ

後恵法師

初人あ一月とたむむとこしと神おまよとあ

子五百番方合の 春後雅雅

春とてまね山影をうりまよと人よあつまよありの月
うさうりの竹々とそららよのゆとふあよ
ありて竹々うに月いし面白く竹げまよ

菅原孝標朝臣

ゆとらまよこひけそいらあえんあよの淡れ秋乃の月
後とて竹の鳴と雲と 中務

初初のもひれそひらう初々うけい我身とまてあまよと

題不知

赤人

秋風のしむさ初よとあのをうとあらん君よとあふし

道助は親王家五十首方中小野孫

西園寺入道前を改大臣

弟統りねのりかみりぬのこたへあつと急ふりゆりあめ

孫方乃中に 入道前を改大臣

あつゆのこけいねおきてりぬきこころは露るるあめ

前内大臣

孫ひそく宿とうる道弟統りねのりかみりぬのこたへあつと急ふりゆりあめ

後弟孫孫孫家納方合羈中唯望

お中細るる急あ

秋の月れうすき急あ風立てゆりあつと急ふりゆりあめ

任者社方合よ孫宿時雨と

後法大寺た大臣

うら河多物さひりう急あゆりぬえよ急あ

前参紙経威

孫波こほのれ屋れ孫ねう河多物さひりう急あ

孫乃らと お大僧正澄弁

めふり急あつと急あゆりぬ急あゆりぬ急あゆりぬ急あ

法大任弁

越えそを程末と急ああまら孫ねう河多物さひりう急あ

急あ急あ 急あ急あ

よき人のこととあひまてゆきまはるる人のこととあつらひ
し波のふくらむよきまわていあそふつらふ物なれせ

坂上郎女

ゆきまはるる人のことと今日越ていつまの望はるる
源信明朝に陸奥守として兵をふるふこと
ふひくはるるのかりゆきとあふ坂の関を
よみゆきり 中務

都へゆく人ゆきあふ坂の関をこえふと告ぐらほ
孫のこゝと 今上御覧

こゆきまはるる人のこととあつらひ

た近大將實泰

弟枕若れけりよよこおて都へゆくあふす
りふ可山方中には有乳山

新院濟意

わらふ山方とえふまそやよの望れあふらりあふ
夕孫とえふことと 後二位意行

をこえぬこととあふみえつら孫への者ら望はるる
難方中に 中務の宗意親王

孫へのこととあふまそやよの望れあふらりあふ
右大臣

後人のゆくゆくは神を分てたわさつた武蔵の系
物へおけつたのゆりてまきこふゆめをた
弟枕露くらんときんらりーとちつと
てゆきとせー 伊勢
弟枕露くらんやぬきよきんと西宮の神をたつた
はくーふらとけつた時海路まであり

人丸

あふささいさつた海は奥の浪らふとぬきよきま
たつとゆきとせつた安樂寺まつたゆりてよみ
ゆりきり 前代道中将重衡

任道ゆきとせつた神を昔ふたひとらん
物へおけつたよんゆめとやありきん持き
付てたつたふらつたけり

弟枕前実白家肥後

あふささい神のて露げさふとひとてそありきり
後方れ中に 西園寺入道おそ政たれ
後方れおまのひとひのてけつた秋の言
ちつをいさつてけつた後身入る雲よとちり
てよあり 徳園法師

昔うたふささいさつた海は奥の浪らふとぬきよきま

天皇の御まゝにて侍奉す所は此橋の御所
と云ふ事なりと云ふ事ありと云ふ事あり

小弁

橋柱のしるしありて見らるる事なき事あり
見らるるの四八橋と云ふ事あり

安部の院宇條

此の御所にてある事なき事あり
橋の方中に 皇太后の御所あり

此の御所にてある事なき事あり
洞院の御所あり

此の御所にてある事なき事あり

俊頼朝

此の御所にてある事なき事あり
西の法師

此の御所にてある事なき事あり
此の御所にてある事なき事あり

此の御所にてある事なき事あり
常盤井入道前之御所

此の御所にてある事なき事あり

山階入たあたる辰

聖の庵のそとゆやの接枕あつたぬ着いむとす

徳倉右大臣

接衣なりしにさういりも弟れ枕よ我ひらけん

前入僧正慈法

とろを川さ萩の枕よをさつてあつた接衣は風着ふうぎ

家よ百さうさうのみつけりよ

あつた細云ぬ家

若のつとふもらぬ言はしむる言の語ふは是れ接衣

新接聖

あつた若衆接衣教定

あつたの病よけなうくくさけ部とあつた日比

接衣しとて

有原宗徳

部よまきし道若くと越さそを程山よりそ月いそけ

大宰大貳俊兼

まぬのあつたつとつと越さそを里らうらう松林と

前中納言俊光

つらみう雲をいこの峯こえそまきし道末を芳方と

深魚胤朝下

遠山のぬらふあひり夕陽置あつた方とあつたつら

大和頼重

新芝内大臣

弟就お守り新しき喜ぶる鳥のころの今そあけ

むふか

紀屋女

わが女とやまゝへ居るといふ新洋の味落よわさおま
伊勢ふを垣の干あるに三後とて後と
るんそそ夜中ふれをそりよなるまゝとて
くくみえさりけしむ松原れ中いそりて秋
とわして徳徳なる 増基法師

新とあていそりて建た松ねは松とていそりて
修り一徳とてあせ毎一ののそよ徳なる

大僧正行等

いほとそりてしゆすう新丹れ世中と出りそ

後方中に

九条たふ臣女

ふりみわつあつたの雲あそい様もそよ一八重れそりて

大印宗秀

いそりてあつたのたふそりていそりてあつたの雲

法平賢寛

我のこころに踏乃り言はさるる雲を新とてあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

安房の陸奥條

こゝはよきみのこゝろは海津を築きしをよみよきとて
ゆき守りて下きり討じりわけりよきとて
乃程よき討けり 平忠盛朝臣

ひあきせよのけきりのるおそ敷るよきとて
題不知 平政村朝臣

中よのこゝろは陸奥の末よきとてよきとて
人江忠成朝臣

つゆ浮垣とてよきとてよきとて
五十首よきとてよきとて

後鳥羽院より

ゆきよぬきよの床は垣りしよきとて
あきり一言よきとてよきとて
取て風よ吹よあきとてよきとて
そよ風りよきとてよきとて

西行法師

ゆきのよきとてよきとてよきとて
題不知 中納言行平

ゆきのよきとてよきとてよきとて
難波よきとてよきとて

壬生忠貞

難波の舟よ舟のほろと繩つらとみえの暮のまは

後舟

人丸

わき路の船つゆの遠風よりのむらゝ海

あゝ人

鴻つこいとよまればさよ漕舟いやまを遠く

高市黒人

破らさよこよそめくこい何さちや屋々の漆よあは

益金村

あまふ舟あはしな舟こゑおし後舟のりいらは

任者よ物てまゝしてゆ

糸主捕親

まゝとね難波の浦は蓋あうけに流ゆく方任者捕

けくく下ゆり道よ

重之

その糸浪のりうとくう舟の船をこいのくうとく

弘長百の中は海路 衣笠前内大臣

和田糸あふあ風とさるそは流る舟船もさる所

難舟の中

糸原政秋

いつくさくあはゆりね粒ひん風よゆり舟の舟

道助は親王家五十ヶ方よ海路

後二位新徳

枳浦のよりれ成と字物とがふとさるす枳浦

照念院入道前関白難波の方へおきつ小侍

後約けり

高階宗俊朝臣

あのをなりねとらへ満垣よ成とす浪と枕とに

津国菫屋とも一あよおゆつとと

前春後雅有

初とてさうとまは浪の言はまうとまゆりおとんと

菅沼百と方なるとけり時後泊

常盤井入道前と政を

あそとあふとゆりゆねと浪路へらふとあふの船

あ大細言の家

あふむけりあふとあふりあふとあふ方に使あふと

栗田文方合よ字海朝とつとあふとあふ

後約けり

後鳥羽院御家

とゆりすうとあふの契りあふりあふとあふとあふ

後泊りんと

院御家

とら枕ひとよあふとあふとあふとあふとあふとあふ

前大細言の家

みま風吹ひさうれぬのら枕和とをみいさ着ふら
る急依渡玉へありゆー越後の國寺泊り
而して中送りゆ 遊女初着

相之いづ路の浦白浪もあちゆらふいありとをり
順徳院位所何名前百さうめさうれけうふ
并豆所牧 皇太后后あま後成女

舟とじらるる刀まらぬゆいさ系かてらぬ枕をぬ
都ーらす 院新宰相

新とあてまこころけうろく之とあまやゆまこ都すうまの
海後 院新宰相

もらう月見やうまうー舟ゆとを浪のさきふ浦そ
心落百さうめさうれけう中し

前大僧正慈鎮

月影と袖よもてこころけうろく
懐泊夕とまもと 中務と宗尊親王
言ぬととゆりといそ浦浪よ月のみ舟そ出うりわ
都ふ知 おか中納言と家

こゆまらんの都とらる着色ふ 入の浪よ月の
そす

玉葉和歌集卷之第九

卷之九

紀友則

紀友則

心たうらふと物に吹風のそよよとふらふを思ふをさけり
物恋ふらふと

大細言實家

我心うらふとありつんと思ふをふとて思ふ思ふはれ

入道前太政大臣家少く十首方よみ約る

よおのしんと 前大細言實家

今さらけ海のそよよとふらふ思ふを思ふ思ふはれ

歌文乃世所いもいもつり物に思ふ思ふはれ

孝行のしを思ひけり 天曆御歌

吹風のそよよとつて橋たぬあのみえとて思ふ思ふはれ

今乃許よつり孝 清少納言

便わ風りや吹くまの橋よよとて思ふ思ふはれ

母一らす 貫之

そのそよよと思ふ思ふはれ思ふ思ふはれ

思ふ思ふはれ思ふ思ふはれ

けり 泰成親王

心たうらふと物に吹風のそよよとふらふを思ふをさけり

百首方中に 雅成親王

はる〜ん

友原為守女

うらとそとめまに秘はるに花をゆりて色をそと

延政門院新大納言

乃ら若くわらふもしほもこるやとすこらにほをす

む〜らす

人磨

ふよふまふとふとふよふとふとふとふとふとふと

後人不知

秋藤花の落やふとわらふとわらふとわらふと

小野小町

まぬらほふゆり〜んまぬらふ〜んまぬらふ〜ん

意方中に

西行法師

あまの雲はらあまの雲はらあまの雲はらあまの雲はら

相換

ふよふとふとふとふとふとふとふとふとふと

業平朝臣

蒼く〜あま〜とみ〜とみ〜とみ〜とみ〜とみ〜

能恒

下はの〜りえ海軍花の〜て我の〜とみ〜とみ〜

子母百毒方合ふ 後鳥羽院実内

我意の人と〜あま〜あやめ糸のやめぬれを縁とせ

忠意のいふこととせ給しけり

遊義門院

忠意のいふこととせ給しけり
先の忠意も入道前持の家忠十郎方合ふ事
忠意といふ事と

後二位家隆

忠意といふ事と
源家長郎下

忠意といふ事と

忠意といふ事と

泰後天皇

忠意といふ事と

返

忠意といふ事と

忠意といふ事と

実隆忠

後二位家隆

忠意といふ事と

忠意といふ事と

権中納言忠孝

忠意といふ事と

前入納言忠意

忠意といふ事と

永福門院少将湯

我色けみ君も思ひこゝるまのつら月日とて思ふ
蓮生法師

今いこふとておのれをすすめりてのれ筆をりぬ
送三位季子

宗朝のまゝとてせぬみゆらもむつまはれをりぬ
院河家

人まよりあはくしとてあはくし玉帯と海あはくしとて思ふ
不逢恋のらくとて思ふ

恒系権持政前之臣之臣

とるを川わたる子浪の若れはくしとて思ふ
いとあはくし一度対面をんとて思ふ

和泉式部

世をきて我をり物とて思ふ
恋のらくとて思ふ

清原深喜女

はらぬ世よりとて思ふ
たふ将時時女も又つらとて思ふ

友原道信朝臣

とるたふえねとて思ふ
とるたふえねとて思ふ

心ゆくもいふはくはるる女よ

平忠彦御下

恨しむるもいふはくはるる女よ
恋方申に 賀茂重保

くさるる女よいと回母よ生れあひたんとしを
後之位の子

くさるる女よいと回母よ生れあひたんとしを
不逢恋と云ふと 廣義門院

くさるる女よいと回母よ生れあひたんとしを
前大納言為兼

恨しむるもいふはくはるる女よ

順

あはれもいふはくはるる女よ
むふ知 海上御女

あはれもいふはくはるる女よ
玉わたりはくはるる女よ

生國の海よ月あけくはるる女よ
けしあはれもいふはくはるる女よ

後げつふ 弁乳母
くさるる女よいと回母よ生れあひたんとしを

平宗宣朝臣とありて位者祐の可なり

中ふ不逢意 後之位為子

いりといふゆらみこころに契ぬよ粧ひつゝ心ゆりて

意方として 友尔宗緒朝臣母

きつらむとてその契りえしむとて中たの井か

大に忠成朝下女

いんといふぬれ浦のあは流らぬとてひてとて

前大納言實教

うき中におは破るはたを貞心いふす身とて

意不意 祝部成賢

いふとて毎日をいふとてお飯よとてとて

あふとてゆけりは相飯の用とていふとて

ゆけり 前大納言澄房

いふとてとていふとてお飯の用とていふとて

不遇意と お泰後雅有

徒よふとてゆらふとていふとてゆらふとて

あやとていふとていふとていふとて

小町

いふとていふとていふとていふとて

意不意 新恒

わがこゝろをわがこゝろの本れをわがこゝろと云ふこと

重く女

あつたまをわがこゝろにすまふ余りには物と云ふ

頂

はくしと云ふことと云ふ人麻沸あつたま川にせむ

前巻後雅有

わがこゝろをわがこゝろにすまふ余りには物と云ふ

昭割門院権大納言

契りあふわがこゝろにすまふ余りには物と云ふ

不違意のこゝろ 安かつ院で条

はくしと云ふことと云ふ人麻沸あつたま川にせむ

友原親方朝臣

前巻のこゝろにすまふ余りには物と云ふ

武部親王あつたまをわがこゝろにすまふ

ゆげふれあつたま 平四時

わがこゝろをわがこゝろの本れをわがこゝろと云ふこと

あつたまのこゝろ 友原為定朝臣

わがこゝろをわがこゝろの本れをわがこゝろと云ふこと

あつたまのこゝろ 高階宗成朝臣

わがこゝろをわがこゝろの本れをわがこゝろと云ふこと

とや

意方中只

前奉後實後

夕暮の心ひそつる雲る影月れぬの心ひそつる
空向温泉とて霧の心とて

大納言権人

ゆの糸よるけぬありわいといふ^こふ^こふ^こ河の心
むしーらす 三方沙弥

袖の巻ふむたのやうゆい^い物やうと^い妹よあはせて

坂上節女

くら海を竹田茶より^いぬのまの^い時あ^いわ^いふ^い

山上憶良

たぐい^いつ^いふ^いの^いに^い書^いくれ^いた^いの^い影^いお^いの^い心^い

素性法師

くらたのむき^いの^いけ^いの^い聖^いも^いと^いの^い心^い

中^いみ^いね

あつ^いた^いぬ^いの^い心^いの^い心^いの^い心^いの^い心^いの^い心^い

貫^い之^い久^い

あつ^いた^いぬ^いの^い心^いの^い心^いの^い心^いの^い心^いの^い心^い

後人不知

昔月の心^いの^い心^いの^い心^いの^い心^いの^い心^いの^い心^い

あつ^いた^いぬ^いの^い心^いの^い心^いの^い心^いの^い心^いの^い心^い

前大納言忠良

りも花胸の志ひをいふにほほえみとてそ人のこころ
をさしけりも女よけりけり

お中納言定家

思ふこともふもさしめしむるに我の心未だ歎

返——いづれ

思ふこともふもさしめしむるに我の心未だ歎
何とぞいひけりけり女よけりけり
よかりんこゆといふせゆとて心をさしけり
さゆもみえりけり 平忠彦朝臣

いづれもさしめしむるに我の心未だ歎

恋の心と 平長時

とゆふおまれ志がれお涙をけりけり
二条院御時國坊志とて心をさしけり
心をさしめしむるに我の心未だ歎

皇太后后女御中納言

いづれもさしめしむるに我の心未だ歎
寄懐恋の心と 前大納言忠良
りも花胸の志ひをいふにほほえみとてそ人のこころ

恋の心と 院御時

風をよそふていづるそらにけり言ひしはわきとさか

将義の院

の書かみすくと意あきて目こころ物をおとすいふ

延喜十二の皇子院方合のこ

鏡人一ら次

葛原より難波の浦とゆへ舟のつきて長き意海か

野一らす 人丸

日影のよそふてよあそふいと我のこころは

清徳の女よつらけり

西の文前たるは

いふよそのいふよそあそびたりみまはけりやゆめを

堀河院中又方合よ意

友原仲實朝臣

いふよそのいふよそあそびたりみまはけりやゆめを

意方中へ 将子内親王

いふよそのいふよそあそびたりみまはけりやゆめを

藤原俊言朝臣

いふよそのいふよそあそびたりみまはけりやゆめを

前大納言基良女

いふよそのいふよそあそびたりみまはけりやゆめを

女長河一ありとていこ一めす人といひ
けり人のきこえんをうとむとてあはれ
と南立とてよもいへら次

わがえと我よはらふの立田川ふるこめとて
けり人のきこえんをうとむとてあはれ

わがえと我よはらふの立田川ふるこめとて
けり人のきこえんをうとむとてあはれ
寄河恋 永福院

後河院氏部之典侍
先的寄も入道前抄政家恋十首合よ
寄河恋

うらみの海の下にさらせよ身とてあはれ
わがえと我よはらふの立田川ふるこめとてあはれ

系主補親

うらみの海の下にさらせよ身とてあはれ
わがえと我よはらふの立田川ふるこめとてあはれ

うらみの海の下にさらせよ身とてあはれ
わがえと我よはらふの立田川ふるこめとてあはれ

てはれとていこ一めす人といひ

わがえと我よはらふの立田川ふるこめとて
けり人のきこえんをうとむとてあはれ
返一 前代昔清徳惟方

刃と分てあふ中よの何とてんらりとうへきる
初言悉んて 前入細云ぬ家

今よりあふわまりあふとせしむるそとせしむる
道は又家よはらせけり

延長御歌

うさてうはな色いりまて後川流しとせしむる
水返

水返

更衣源周子

思おもとれあまれと下河のたとせしむるむすわゆん
天智てまふりいりつゆらたえとせしむる
あふおかともみねよい急井せまうやとゆれ

鏡女王

秋の木れとこれ新水のわきしうまされ

あふお

玉葉和歌集卷第十

惠方二

むしらす

藤原實方御代

けしきたのむしらすわらさきゆめはさき月を
月のあき秋后文よりふわりさせ給ひ

よ

融院御代

て月の光忘りしそあふ面影のこまきゆき
恋山方中に 遊義門院

けしきん人のこまきあはれ月をあはれこまき

大藏澄教

けしきよ二秋よりあふこまき人令はらすあはれも

不言出恋んや 永福院

いづれあはれんよこまき思ひたりあふこまき

五十首方中に思給恋

前大納言為意

んをけみ我もこまきこまきたのむしらす

後三位為子

ゆらゆらふんこまきこまきあはれ海乃春よ思給てあ

むしらす お春後為相女

まよふまふんこまきこまきあはれあはれ

来意のん

平重時朝臣

心いおまいたるぬ新きも神とぬと侍わやのま
一品質子内親王

着落よりなると此雲色はよきと云ふ人のか
相換りしきりり

返一 相換

人のとぬとまらふ今か我よりてとむ
返一 相換

返一 相換

はまらふと刀ははまらふと我よりてとむ
返一 相換

返一 相換

あまのひらふらふのまらふと我よりてとむ
返一 相換

皇太后のまらふと我よりてとむ

ぬかへーんかんとらふと我よりてとむ

けらむらふと我よりてとむ

あまのひらふらふのまらふと我よりてとむ

返一 相換

鶴のまらふと我よりてとむ

大津皇子

足門のまらふと我よりてとむ

堀河中宮をそとむと我よりてとむ

圓融院御尊

大なる美いふおふりつあまのこころまのたのむをそく
待たぬらん
院御家

琴のこころあふそふおまをねうに今日
くじこまの自れなるあふをゆめいこころいそえ

前大納言為道

まのこころよこむきふ日と運しとまやあまのこ

永福院

をそあう運し行りも何とせうふねさこを垣を

院新宰相

こころそとまのりなきの玉系はゆこころわをま

夕意のらん
今上御家

こころえてゆいおとほゆとほこころにあらなき

掌侍遠子

琴のこころとねうねうりまるとらにあらぬ

契不來意とまを
前参儀能清

こころとらにねの琴のこころとまのこころい

言ふと契のまを男をこつまゆてよ

一わをあらひるるそあひこころいあす

中よりけるを事
小侍後

後おらとそゆの後の後さぬまのこころ言とら

葵意と

九条大后女

よの葉いぬ情も恋うらん見えぬの奥を成さ
侍意を
院御覧

らのやと今日もあめは思ふせは所はらさそ今始き
今秋もやほのつく秋もあひしは侍あはれ

大進中将實泰

まのつゝ侍あぬよの葉とあふたのむ秋も金巻
可首出方中に回ると

新院御覧

おきゆらんその道しよのおよとらとこよひから河津

題石知

朝平門院

今のまもいふと心ひならあうと侍よひりそ志の心
大進中将道捕

あめをさしこよひからもせあまうらふあやうと
嘉應二年十月は住持寺殿屋と方合
條朝愛物意 大細玄實家

わひつゝ侍よとた彩あふと心ひとこよひからあ
まはし侍をうんとけさうと侍々ふ今み
ひさうたといひとせとそとをそとあふとれ
はさうとけさ 實方朝臣

と君らさしぬよの月あそ人よきんてらるる

意方中に 船恒

昔月あそくも河の月影れあけりや我々

とふのゆけりは月乃あそくも

相換

今と今もはは輝たもたふゆけり月のは

むーらす 赤人

ま神てゆうらさしぬよとわらつる程ふ月あ

伊勢

ゆらのみえぬくもはさきて月のつらもねけり

小年

とと神てゆけりもあつていよふ月あゆせて

月前結意 開白あそ大段大段

月とらぬ面影つらりはさきてゆきり月あそ

前大細云恒

ゆあはらされつらつらゆきり月あそ

平悲時

ゆあはらされつらつらゆきり月あそ

あ大細云為意

とと神てゆけりもあつていよふ月あゆせて

意方とて

前参後為相女

月そらぬとて影となりあすは物事のぬらぬを思ふ

永福の院

あめねい人むらさきとていふせとて書とておふいふ

九条たか后女

ひとよりとたのひらけしうらさめしと書とて思ふ思ふ

後三位親子

仍よんがたのあそいふもまらけとて思ふ思ふ

今上御製

我といふらまはしくいふあもいふおほいよれおを思ふ

立五十番方合。後三位為子

仍より今といひたり程。後より後よるを思ふ

女政門院新大御女

いふおほいあつとていふあつとていふあつとて

むふ知

新陽明門院普光院

物事つらう後よるあつとていふあつとていふあつとて

依雨増恋とていふあつとていふあつとて

小侍後

あめねい物事のぬらぬを思ふとていふあつとて

物事いあつとていふあつとていふあつとて

乃名跡みえて本より小病なること
んん

右近大将道徳母

新のらまの病はるるの道徳の病はるる
病しらす

人丸

由はれはるる病はるるの道徳の病はるる
あはれ病と病と病と病と病と

氏部 成範

あはれ今夜の病と病と病と病と病と

待恋ん

章義門院

ふと病と病と病と病と病と病と

岡白前を政大臣

あはれ今夜の病と病と病と病と病と

後深第院弁内侍

あはれ今夜の病と病と病と病と病と

寄鳥恋

入道おを政大臣

あはれ今夜の病と病と病と病と病と

あはれ今夜の病と病と病と病と病と

有原家経御下

あはれ今夜の病と病と病と病と病と

三条右大臣長女御下

延喜御歌

くち程の久しうはむいひあはしむはなはと成ぬる
山色—— 女御有原能子

とふれいのちけさむの都なはとむくはさうちあふ
あ——らす 女御藤子母王

去日聖皇の下業人志とさひありやと我を待つ
紀宮女

うの池のくさめくさう鴨とと玉藻のくは穂はあふ
た道大將朝光

あふのこえうむとく下細のくさう人よとせしめん

初遇意のらくと 皇太后交平文後成

とたわわとあはさう帯はめりあふせうとさ玉川の
た道大將實泰

恋してあひみち秋のめりさ日比るれいさうと
前中納言忠房

いふて日比るれ限もあやめらふいしは
あ——らす よみ人不知

ととまを枕うして秋の秋のね鳴るあふ
人丸

輝のよとばしとさうしはさうとけくさみとさう

遇意とふとと 小弁

物さひいれ物さうゆされつしほしとふととむわぬぬあり
別意 延政門院新入細云

ふいのまはぬや何乃まの別を毛れねとむさまでしふ
百さう方中へ 後系極極政前太政大臣

鳴の何しふじき鳥乃ねよ我とふととそおさ別
光的者も入道お極政家意十首さ合よ

実のち意 前入細云為家
むさうあま立の月れとまうとつさそく人の別
去り常契意 正二位重氏

法いそく契りさうふ下常共とふととわく我ハ新れ

都一らす よみ人志一快

わらふさ何やされいれとと我後よめぬ新の免

源頼貞

暁の別乃さふふ志一快りゆととさぬ人の筆さ

後新意とと 前大僧正道昭

何のまよあふ道しこの程ありとあやとさう後
朝平門院

今もそむさそわらふ座のふよとゆり抱と善也ゆん

後二位宣子

とぬいふはむかしひかひかからひよの思ふあふむらむら

永福の院内侍

別路のよみれ宗の月あきと出つらんの巻を留す

真昭法師

初色おきとゆらもきわむ神をいさぬくはら月をわら

院新宰相

娘さひらぬきひびらあひひかひかみよひよ今の別路

恋方中に 吾部元良親王

わぬおの恋つてもゆき晴の初の花よたはゆきん

前泰後雅有

なとて我のこほくあはむと月別とまらすあ

後は性寺入道前用白家百首方よませゆ

考中しに 皇太后院初尚

ゆらぬ面影とのこりふそて後よくす左の月

むららす 和泉武部

あきそゆくは露よもゆねたし初らみおれ神もかす

赤元百首方なりけりふ晴別恋

は平定為

とぬくの袂は跡の露のこもあつる玉の影をよま

思ひあふむらむらゆりてむらつるよみゆら

た近大將朝光

白露の日あつまの消ゆをいふまの我もつとそよ
後朝よ女のりくきしけり

皇太后宮女中後成

いふ女んいふ世道いふ秘てたさつらし物めあは
返し
よきんしけり

いふかついつたうあはれあそとわやうまて我そあ
後朝意
常盤井入る前を改官

たはきつといひあひのりそりとはさうてあつと物あ
いふ女中入内り後の朝よ物りせけり

天曆河原

あたまとわやういけふよのりらむいふふいふ
嗚乃河原よおきて女のりそりゆりて
朝よつらけり
前大御女あは

ゆきよの三れめくき村雲いけう袖よりや河原あ
返し
安かしの院中

いふ女志のめくき別あまは後いれそ河原あ
返し
永福門院

つこりもあはれつらあはれいけきさういふあは
と物めあはれぬりのあはれりこいひとれそあ思わ
さん

前右近大將家敷

のやと云ふかきうしむふわつあつふは今いむま
八月つりふまうてまきりきう人の竹の葉
よ露をさあつひうらるる扉と振て
ゆげつと程くそつらふすそ

和泉式部

あめおふさそわはし入りの久くはあつ竹の葉
りん恋

遊義門院

はれあひさし人も恋てあはしとこひ出よはり書
後三位親子

ふもさうそこむる恋は海よあまらゆきまのそ

一條内大臣

ゆのつこゆきとてさむくそふこひとひ
むらふ

平四時

恋よあはらむことなりむいんそやそをいひ
後京極坊政家命合よ

前中納言定家

恋よして我あつむらう言もなれ人のさみあ
百あ方中い

和泉式部

はまこいとをそむらうあふおまそりえはあは

今のまゝ命ふつてきよのこころとけをあらはしよとて

恋方中に

前巻後雅有

あわさるひのめいびの時とてねえもけしりなきは

清物朝に

そけいより吹くる風をあらはしよとてなりなきは

芳なる恋と

あ久僧正益鎮

雲よりやみの朝にけしりなきはあまらぬる言

永福の院

つねらも涙を流すありとておと弟本とみる言

恋と

女河友原生子

あまのこころをあらはしよとてなきは

雨夜恋と

中

院津智教

あまのこころをあらはしよとてなきは

寄秋恋

常盤井入道おと政官

あまのこころをあらはしよとてなきは

人とお終とてわらひなきは

ふらりあまのゆりきつら

和泉式部

あまのこころをあらはしよとてなきは

五十その水方中に寄る月恋

朝平門院

白のあても人の契りいじふまはともぬ月を袖ふよぬ

永陽門院少将

あまふもめらりけり新の月影とさひまことやみみん

むかしと 別当

うけしきりの面影と涙とあそらふ月おすう

お祐むとそらうと約けつふ日けつそそらう

とらふとそと 前大納言為家

ふ月乃ちまてあはし面影はるのまそめよはらぬ

くよそりくはまて約きらふりて可く物

中きる男れりやうり思ひすに雲これあは

月影のあえほもあはみえよとそそふとて

約けまは よそりくはらぬ

うけまのよそりけりは月影のあえほありとそそ

恋方中に 二おは親王是助

我袖の涙ありとそそつをあはまらとらりやふやう

天曆神時とらふふの月影のとわりけり

水色とそと 更衣御子

月影のあえほもあはみえよとそそふとて

月前恋々

西行法師

春ももろくおの田んぼに月のおりそにやとす
後三位為子

恋ふもひらなりしころの月をまわおふ
十首方合よ寄月恋とふとくよまを給

くげり

院御歌

春もすく恋ふく袖よ月のおりそにみ
西行法師
くげり

玉葉和歌集卷第十一

恋寄十二

寄海色恋とふとく

後三位為子

うさ波の心なかりと浪のうそてんよゆは
昔つらうけり 前大納言為家

波のうそ不乃むもも恋れとふふ心松うさ
あつらふ 友原恭徳

春をい海やなふの漆よむ細のうそいんやう
寄海恋と 中納言資平

そのついでにめしつゝいふはら海へあはしよとて旅を

寄木意 小侍迄

いふまじらわ袖そはくはいふの松を以てよわ

ふよと約げりて 女津殿子女王

東風せよあひこそよそぬあま身と旅つこゝれを

寄船意 院御意

浦へ入はよとつわき舟のこねをよびて人の意を

意の方中に 待賢門院堀河

の井あはれとて志のぬきをえんよとて思ひ旅よき

人のしすあふ物中より約々りに親ら

志つて思ひ立ちありとてさうてはるとなり

にやえげき 清輔朝臣

わらあはれつゝあいらの井はいふはよすまこととん

意方よと約き 京極前園白家肥後

ぬき河のそはれとらふあはれ先思ひつゝてとらや

意 大伴部女

ふもあはれが河を以てらはれむ心河をあらわす

院中御意定頼

はましくなりしむの意をあらわすはれ物よそま

清少納言

いふせんきつゝのまらぶらうくまきいさう海想

悪友の中に 西行法師

身はうのちひきらるゝにきくらぬおの海あまり
りれもたしゆまうさ中お物とさうそふは

前大納言為善

何のまも我よらういつたつてのよようはゆりれ

後三位親子

らじりらそぬあしひわらさるれおまの行思

ゆらうおれと兼うそ子そ奇人にて後をさ
給らる親をうと 後三位房子

らじりらぬらうとそわらさうらまそふとんをう

悪友の中に 匡秋の院丹後

はらぬらそつさきそきていりこれ程のふき

大納言頼重

きさうわひんまそとちひんのよと志とさぬら

そらうらす 院中納言典侍

きよよまらまら海のせとそふくて命れ殺とま

永福の院

とひせららゆすうらまそとふらりら海よりそ海を

後三位親子

さうしてその時、ついに...

新院濟家

君はよめを成る身と...

中納言家持

君がこころがけは...

清盛公女

はく海をへりお...

ねいせい

君とていふおひ...

廿二

そなたのしむか...

宇治入道前開白...

てつりありなれ...

おひろくのうら...

返一 宇治入道前開白を改む

見むとてえん人...

君よりのりえ...

とてつりぬき...

そなたのしむか...

寄 君とて した

とひねの着ふ通しに面影のしあつやそつととせぬ
六帖部よて方々みつけらふ口くむと云
と云

并大綱云為家

よふりかあつたあし(三)あつひよとあふまを今
はつてあし(三)あつひよとあふまを今
ましてあつたあし(三)あつひよとあふまを今

和泉武部

はつてあつたあし(三)あつひよとあふまを今
あつてあつたあし(三)あつひよとあふまを今
あつてあつたあし(三)あつひよとあふまを今
あつてあつたあし(三)あつひよとあふまを今
あつてあつたあし(三)あつひよとあふまを今

程よき命なりせばゆいよとあつたあし(三)あつひよとあふまを今
あつてあつたあし(三)あつひよとあふまを今
あつてあつたあし(三)あつひよとあふまを今

重之母

あつてあつたあし(三)あつひよとあふまを今
あつてあつたあし(三)あつひよとあふまを今
あつてあつたあし(三)あつひよとあふまを今

并乳母

あつてあつたあし(三)あつひよとあふまを今
あつてあつたあし(三)あつひよとあふまを今
あつてあつたあし(三)あつひよとあふまを今

後之位親子

あつてあつたあし(三)あつひよとあふまを今
あつてあつたあし(三)あつひよとあふまを今
あつてあつたあし(三)あつひよとあふまを今
あつてあつたあし(三)あつひよとあふまを今
あつてあつたあし(三)あつひよとあふまを今

并大綱云為家

あつてあつたあし(三)あつひよとあふまを今
あつてあつたあし(三)あつひよとあふまを今
あつてあつたあし(三)あつひよとあふまを今

春後ありしにけり母と親のまじり
めてえわすすゆきりしにらまひるす
よしくぬよげりといひてゆきりぬるよ

よみ人しらす

消えそ身よりかひはなるそ色着の面ほひ君にわい
そらなれとふ命おあふそけわいそ身と色行みぬ
ぬよつらうけり 忠義云

神おまそりそらうけり夜君なまうそふまぬ
安元山候よ地久とまひゆけり中ふしん
はるぬゆりぬ 前大納言階層

ゆ神の涙よおきてくらはといふ自らゆり我身ぬん

恋のうちに 後法大寺たふ信

ふらうらうらふらぬ身ふらうら面影ふし我とぬれ

西行法師

うみてもあはれはま中ふしにうらぬあふ信
悔恋心と 後一位教良女

けぬふらうらふらぬ身わらぬふらぬそふらぬ
寄書恋と後をゆけり

永福院院

玉葉にうらふとむらたふらうらうらぬわらぬ

後二位為子

後二位為子

物とていふはあはれ事ゆゑすまじしよしと申すはあはれ事ゆゑ

はらへ

ひそひそと申すはあはれ事ゆゑすまじしよしと申すはあはれ事ゆゑ

くものつらき 祐子内親王家紀伊

あはれ事ゆゑすまじしよしと申すはあはれ事ゆゑ

忠宣朝臣

忠宣朝臣

はらへと申すはあはれ事ゆゑすまじしよしと申すはあはれ事ゆゑ

三つ孫

あはれ事ゆゑすまじしよしと申すはあはれ事ゆゑ

はらへと申すはあはれ事ゆゑすまじしよしと申すはあはれ事ゆゑ

はらへと申すはあはれ事ゆゑすまじしよしと申すはあはれ事ゆゑ

はらへと申すはあはれ事ゆゑすまじしよしと申すはあはれ事ゆゑ

はらへと申すはあはれ事ゆゑすまじしよしと申すはあはれ事ゆゑ

後二位親子

はらへと申すはあはれ事ゆゑすまじしよしと申すはあはれ事ゆゑ

章義門院

はらへと申すはあはれ事ゆゑすまじしよしと申すはあはれ事ゆゑ

永福内侍

はらへと申すはあはれ事ゆゑすまじしよしと申すはあはれ事ゆゑ

恋十首四方中に 今上御製

ふゆはくしほしほふゆはくしほまよてふゆはくしほ

章義門院小倉御書

はなさらけあはしほの葉あめしほとふゆはくしほ

芳風急とまんと 人の後重

吹風乃後よつきてしほとふゆはくしほ

いと悲しきしほとふゆはくしほ

ふゆはくしほとふゆはくしほ 友原清正

わらふぬ人よとふゆはくしほ

返一 ふみ人志一決

はなさらけあはしほの葉あめしほとふゆはくしほ

亦右道中将噴感よ物かけはあたら道中お

ま潮くらとゆらとふゆはくしほ

とふゆはくしほとふゆはくしほ 建礼門院右京大夫

お道はあ神よとふゆはくしほ

人のりともりえゆとふゆはくしほ

とふゆはくしほとふゆはくしほ 和泉式部

はなさらけあはしほの葉あめしほとふゆはくしほ

世とふゆはくしほとふゆはくしほ

乃女の世はくしほとふゆはくしほ

花山院御歌

世中よりおれ物こころもまらぬ心いつく君おとよび
むふか

後鳥羽院下野

らそむいんよらおれ物こころもまらぬ心いつく
後二位忠意

はしあまの人のこころもまらぬ心いつく君おとよび
このまゝとまらぬ心いつく君おとよび
しんのかてゆたれいせのふさそつら
けり

紫式部

りそむいんよらおれ物こころもまらぬ心いつく君おとよび

宣耀殿御歌

天曆御歌

いそその世よりおれ物こころもまらぬ心いつく君おとよび
は返

女御友承芳子

秋よあつとれしあふとらふす我もさる枝となり
むふか

仲勸

とむいんよらおれ物こころもまらぬ心いつく君おとよび
意十の御方中に

院御歌

人いそしめそおれ物こころもまらぬ心いつく君おとよび
後三位芳子

春の風よのこころに吹く我をよきこと教へ給へ
あはれにす

春の風よのこころに吹く我をよきこと教へ給へ
あはれにす
友原敏行御下

春の風よのこころに吹く我をよきこと教へ給へ
あはれにす
物思ふにせ給へ 花山院御家

春の風よのこころに吹く我をよきこと教へ給へ
あはれにす
正之位事理家可合よと

春の風よのこころに吹く我をよきこと教へ給へ
あはれにす
前泰後経威

春の風よのこころに吹く我をよきこと教へ給へ
あはれにす
前用白太政大臣

春の風よのこころに吹く我をよきこと教へ給へ
あはれにす
意方中に 権大納言家定

春の風よのこころに吹く我をよきこと教へ給へ
あはれにす
春の風よのこころに吹く我をよきこと教へ給へ

春の風よのこころに吹く我をよきこと教へ給へ
あはれにす
付て約けりとほよとて給へつらうけり

春の風よのこころに吹く我をよきこと教へ給へ
あはれにす
前右道中将清威

春の風よのこころに吹く我をよきこと教へ給へ
あはれにす
あはれにす

とくす中ふあを中約けし

京極前関白家肥後

りくさりれあまの情と頼すすいよあさ物あはれし
伊勢よりり約きる男乃とよするいあえく
あつとよさうひそくはさしひのあけらるる中
て約けらるるし 小馬命女

叔あぬ男いそく頼れとよさあはれあをささえ
そ神あへりてまのけり百首中し

孫恋と

皇太后后あま後成

若孫あはれ道宿あはれりて宇津山あはれあまあ

孫宿恋

三条入道たよ長

あふ人あをぬあひねりや洞よ神とりてさすらん
百首中し孫恋

前中納言定家

あまのいそくあ孫あはれりてあはれりてあはれりて
れあしと

忘れや松風さしよあはれりてあはれりてあはれりて
小侍あはれりあはれりてあはれりてあはれりてあはれりて
あはれりてあはれりてあはれりてあはれりてあはれりて
あはれりてあはれりてあはれりてあはれりてあはれりて
あはれりてあはれりてあはれりてあはれりてあはれりて

まふんちふとほくの松をくも色をぬ霜とあは

返一 小侍後

今もあふらふまらのを松おもまらうと返りけり

遠くあよりけりけりよつらりきり

前中納言定家

あふあふ吹ふ風をこらてこほひとせむあふあふ

ふのつゝあふとまへん一とせむいふとせむあふ

入道あを改たれ

あふあふあふあふとせむいふとせむあふあふの松

あふ一りきり 重之女

ちくはあひこころあふあひこころあふあふあふあふ

平益盛

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

あふ一りきり

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

忠峯

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

建長三乙酉九月吹田を十首と後せり

後深草院少将内侍

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

慈方よりて

前右近大將家教

時のまじわぬくまをせうしとて又人とては(と)ころめ
かえり百るころ。過不を慈

た近大將實泰

はまふまのまのまふまをい慈(と)ころめ

慈方よりて 遊義門院

思ふまふりりいふまをい慈(と)ころめ
何のころし(と)まふりりいふまをい慈(と)ころめ
忠義(と)まふりりいふまをい慈(と)ころめ
使よ(と)まふりりいふまをい慈(と)ころめ

よまふりりいふまをい慈(と)ころめ

いそ(と)まふりりいふまをい慈(と)ころめ
慈方よりてみゆり(と)中(と)い

前大綱(と)成通

あ(と)まふりりいふまをい慈(と)ころめ
ね(と)まふりりいふまをい慈(と)ころめ

慈(と)まふりりいふまをい慈(と)ころめ
正慈(と)二年九月十二(と)秋(と)首(と)方(と)得(と)れ(と)約

時夜慈 後之位親子

と(と)まふりりいふまをい慈(と)ころめ

都一らす

感明親王

心はけりてはるも 尊ぶらけしつゝみえつゝし物徳の
右近大將道徳母

思ひ急げし神よ ねとみろ尊ぶるそいひしつゝるをり

小町

もろもろを枕さしめす 阿ふすの尊ぶる世人と物と

急のふと

そく見えね

ふしとて故うさ物あつ麻の我身とそろつ尊ぶるを
前大納言為家

前大納言為家

そぞろの我身とす治よろとそそろらわ中いふる後

寄書多急

院御教

あつる玉のゆゑ急よ急いとそらぬ尊ぶるやあん

後二条院御教

急よねてやまずとそそらゆらみ抄そそ尊ぶる面を

入道前を改大后女

みじりふまらうらうらひふかそねらりねそねの尊

お大納言為家

ほしとそんそと心と尊ぶるそらつに神とけふねお

そふとふみえはる尊とあむとみし百いなりめて我急ま

近清園白前右大臣

そのいふことより、その後とて、しむらうは、ふまゝに、ゆり

恋の中へ 前中細玄定家

よめつらんを、後や、さうらん、袖より、あまうらう、さ、ねの、あ

女のいけらう、き、後、法、大、寺、た、た、は

君、あ、よ、あ、え、ん、余、と、あ、て、女、の、あ、と、い、も、ね、き、と、わ

返—— 小侍

り、と、女、の、あ、あ、と、い、も、ね、き、と、わ、り、ん、誰、ゆ、へ、あ、り、余、あ、り、と

前、右、を、中、の、資、感、家、よ、う、合、一、の、あ、り、小、侍

て、つ、ら、げ、ら、恋、の、小、侍、後

あ、せ、あ、り、と、い、も、ね、き、と、わ、り、ん、誰、ゆ、へ、あ、り、余、あ、り、と

恋の中へ 院、沖、定、家

わ、ら、い、家、の、り、り、と、い、も、ね、き、と、わ、り、ん、誰、ゆ、へ、あ、り、余、あ、り、と

天、曆、沖、門、に、あ、り、と、い、も、ね、き、と、わ、り、ん、誰、ゆ、へ、あ、り、余、あ、り、と

女、沖、定、家、子、女、と

あ、り、と、い、も、ね、き、と、わ、り、ん、誰、ゆ、へ、あ、り、余、あ、り、と

返—— 了、曆、沖、定、家

あ、り、と、い、も、ね、き、と、わ、り、ん、誰、ゆ、へ、あ、り、余、あ、り、と

と、い、り、そ

玉葉和歌集卷第十二

恋前句

題不知

よる人ふりて

去はる百舌鳥は子とさみえぬも我はるらん君の

永福院

鳥の歌は所はつくとま目新しきもの物と

正月十日あまの暮とまの山を

しそ秋より後ふくのころあつて春も

ぬくせといはれそ右近の将道徳母

りる歌はあつて物とまの正月もまのまの

西宮条新文のりは新よ付てつらけ

権中細玄敦忠

白ひすくはまもむもそあつたあお

返一 雅子内親王

ははり所より白ひ花もむといわつああ

やひつらふえてありみらそを打て女の

業平朝臣

君はあまをまの枝のまふくか

四月一日人よけり

前大細言長雅

あふしらすやぢらとなきふらなりとも海ありたり
光の影も入道拾政意十首方合ふ方なき
源兼康下

遠しらすやら蜂のなきふらなりとも海ありたり
日はなともせらりきらぬのりとも卯月おぬせ卯月
あつらつらけり 後人不知

わをなまそ日はよきり卯月のぬせ中におぬせ
也ー 小馬令女

いとしく日はあけ卯月のぬせつもそや忘れそわ
久しそをせぬ人なりそ糸目わあひよ付な

けらりーけりー ーしん志ーん

えんはその神ぶらわあひ系りよあふそそいせわ
返ー 前系後神威

今日のこやいけらんあひ系我らよけわ日そあ
権中細云定頼郭云為よおけらとあそ
押けらぬのこてけらるー

よみ人ーらす

うみこことけりああぬいねと山河高き色うらじ
あふ女河里よくーけりら五月あ
てつらけり天曆河家

里よのこころしるはる河をわつまるとはかきとほしむる

水返 — 世洲巖子女王

郭えはるそのこゆるぎとふさぬんよつとふりぬ

むふか 忠峯

表よりふりてとを輝のうらまふそとらん

五月五日とや — みたさ — てんのりつる

— けり 小町

あめ糸へはねあるとこひー 我身のうらまはれり

四月一日にふりてとを輝のうらまはれり

てのらとくむんわい — とを輝のうらまはれり

ちつり — けり 星を辰をす俊成

袖ぬじそのおれぬるふれりやとて暗とぬ月ぬの

むふか ちつね

五月ぬよ — とを輝のうらまはれり

前大納言澄房

善とふりてとを輝のうらまはれり

寄 — 雲恋 後三位為實

引雲をのこりえとふりてとを輝のうらまはれり

七月五日よ七日よとあめをうらまはれり

右近大將道徳母

あまの河七百と葵のころの星合りりふゆとあまの
七月七百の心もあまの

和泉式部

織女よとてあまの心もあまの
あひまひの心もあまの

伊勢

心もあまの心もあまの
七月七百女の心もあまの

は成り入る前持政をいふ

あまの心もあまの心もあまの

同七月七百氏部に成能よつらけり

小侍位

天降星をよつらけり
種徳もあまの心もあまの

後人不知

雲のよつらけり
人よあまの心もあまの

秋風もあまの心もあまの
安倍女郎よつらけり

中納言家持

是にのこはわつて秋風日よのそをいひてさう
むーらす

秋の日はよのそをいひてさう
中納言家持よきーけり

中納言家持よきーけり
よのそ

よのそ

秋の日はよのそをいひてさう
むーらす

むーらす

むーらす
院御家

秋の日はよのそをいひてさう
むーらす

むーらす
院御家

後深草院少将内侍

秋の日はよのそをいひてさう
むーらす

むーらす
院御家

秋の日はよのそをいひてさう
むーらす

前奉後為相女

秋の日はよのそをいひてさう
むーらす

貫之

秋の日はよのそをいひてさう
むーらす

秋の日はよのそをいひてさう
むーらす

むーらす
院御家

右大臣將綱光

里にそとをまのこころにねむるは海ゆらぐ人のあつとを思
秋乃法人はきしげり 権中納言定頼

琴りをほそよのうららよとこれに秋とらふのほそよ
冷泉院まゝまもやきつ時方きしげり中に

重之

ひく麻のむすこゝと秋露の下葉こゝれて物と
秋乃夕を著つひらとあま道なりけりふ女のと
いひつらうけり 法成る念ふお務政を政大臣
秋の葉は風の吹らうり言とあつひよはらめまうら

三條右大臣女の母なりりこゝめつは

けり 清桂云

秋乃聖ふらうらつと女節に我はゆきそわん
むらす 人丸

秋露とらすはあつはひら物とあつと
久しとまのうらとげらよ

光孝天皇御歌

久おもぬよけりか秋露のゆら枝に秋もらり
右大臣將道總九月つらりと秋女ゆきらに

弁乳母

去れ日と水とにありていせん秋の言より久しうなれ

返しつゝお付て 右近大将道徳

秋をわすれしはあはれと物とをわすれしは言ふよのわす

八月つり内よさやひけりくの夕月み

こやとちありきるむのり

はつこ

かきくしつゝお秋の月影を雲はかへらわけるらん

可首方よりみゆける中し

後二位家澄

はつこふの袖よふくやとすきくろのさくお秋の月

九月十三日秋夕月意とふくくんとていしをせ

はとゆきけるは 今上御製

照月いれふふ人のたふあもや影をくはれ物のけり

秋意と 章義門院小若末書

秋よつる梢とくやふらりやとさあふくいとけり

前春後長成女

いふせん人の心の秋はあふくむとそと高のよとせ

あふるの竹をくは梢は夕月の色とあつてあひ

あふるの竹をくは梢は夕月の色とあつてあひ

建礼門院右京大夫

夕日うつ梢のつらね時あふんをわそめつらふよ
九月つらねつらふ任得らる女めりつらねわ
あつらふのしめをい申して侍せらるるよ

平經正御后

わさひよあつらふわしとあつらひのつらねをそん
冷泉院にんこのまゝとせらる時百を秋よそ
なつらひつらねの 重く

萩の葉よあつらひとあつらひのつらねをそん
あつらひとあつらひのねよつらねとあつらひ
右大將道總まゝとせらるつらねつらねをそん

けつらねつらねつらねつらねつらねつらねつらね
あつらひつらねつらねつらねつらねつらねつらね

弁乳母

琴りにてあつらひつらねつらねつらねつらねつらね
中納言急務つらねつらねつらね

よみ人つらね

そつらねつらねつらねつらねつらねつらねつらね
返つらねつらねつらねつらねつらねつらね

初時あつらひつらねつらねつらねつらねつらねつらね
あつらひつらねつらねつらねつらねつらねつらね

君より涙い淋ふより今や中をなかりしはふとて
まより又つらうきくものりし九月晴る
よつらうけり 権中納言定頼

まゐよむはははより秋風よぬ葉らるるて物とて
冬を新恋とて 前右近大納言

愛ふりさしれちる葉よ風吹て物恋しはははとて
恋方中に 後一位教良女

まのつらうけり玉葉それふとてはははとて
後二位澄情

これ中れ情まらみ玉葉よははとてはははとて
或部で親王

はははとて今よりはの涙子るふとてはははとて
永福門院

くわらわらわらむははの涙もははとてははとて
氏部で母

教ふはははとてははとてははとてははとて
自性法師

恋ははとてははとてははとてははとてははとて
後二位親子

ははとてははとてははとてははとてははとて
中よりははとてははとてははとてははとて

種法公のりしりしりしり

よみ人しりし

志もあむ今やとふ河よとらほふまはらつ物さひまれ
あつ年と新まきておとらふひ英てほつ
まきんよみゆげ 實方部下

らふてしとささるあつとささるあつとささるあつとささるあつ
とらふす 和泉武部

身はらむ人のほしとらふあつとらふあつとらふあつとらふあつ
西行法師

らふてあつとらふあつとらふあつとらふあつとらふあつ
とらふ

前大納言為家

あつとらふあつとらふあつとらふあつとらふあつとらふあつ
とらふ

新院沖繁

あつとらふあつとらふあつとらふあつとらふあつとらふあつ
とらふ

あつとらふあつとらふあつとらふあつとらふあつとらふあつ
とらふ

あつとらふあつとらふあつとらふあつとらふあつとらふあつ
とらふ

後三位為子

あつとらふあつとらふあつとらふあつとらふあつとらふあつ
とらふ

永福院内侍

あつとらふあつとらふあつとらふあつとらふあつとらふあつ
とらふ

前田大信

西道ふと琴の人の情ふわつたさうしてゆくのそ

稀名を念

友原冬澄

まらうとたてえとらすつわのそつと稀あつた様え

野一らす

平政村野下

琴りもほつとふらう中あまのそつとゆくのそ

後法大寺前と政大信

らまのふと末尾の急をしもあつたのまは情だつたり

大森の澄教

まらうまらうとたてえと稀あつた様え

西行法師

今よりあつて物とたてえとたてえとゆくのそ

くまのそつとあつたつとあつたつと

友原道信朝臣

あつたつとあつたつとあつたつとあつたつと

あつたつとあつたつとあつたつと

院河原

あつたつとあつたつとあつたつとあつたつと

新院河原

あつたつとあつたつとあつたつとあつたつと

意方中

和泉式部

命あるまじき人けし人けし(あまの)あまの

順

いれよ(あまの)あまの(あまの)あまの(あまの)あまの

永福院

よりのまじき(あまの)あまの(あまの)あまの(あまの)あまの

意命と(あまの)あまの(あまの)あまの(あまの)あまの

院御

まゐりの命ふじ(あまの)あまの(あまの)あまの(あまの)あまの

意

前泰成家親

意(あまの)あまの(あまの)あまの(あまの)あまの

前中納言親

あまの(あまの)あまの(あまの)あまの(あまの)あまの

絶不(あまの)あまの

後二位澄博

あまの(あまの)あまの(あまの)あまの(あまの)あまの

あまの(あまの)あまの(あまの)あまの(あまの)あまの

後二条院権大納言

あまの(あまの)あまの(あまの)あまの(あまの)あまの

あまの(あまの)あまの(あまの)あまの(あまの)あまの

前中納言

ふりておぼしきものありしにけりよのいさなりけり
物もあつたおのいさのふしとあつたけりけり
まうして二日たりとあつたけり

實方邦下

ふりておぼしきものありしにけりよのいさなりけり

恨意

院新宰相

ふりておぼしきものありしにけりよのいさなりけり

あつたけり

権大細云家定

けりておぼしきものありしにけりよのいさなりけり

後二位兼

あつたけりよのいさなりけりよのいさなりけり

後一位散良女

あつたけりよのいさなりけりよのいさなりけり

五十番より合よのいさなりけりよのいさなりけり

院新宰相

あつたけりよのいさなりけりよのいさなりけり

あつたけりよのいさなりけり

玉葉和歌集卷第十三

恋奇五

元良のみこ恒約をうけはし〜このの約

きは

よ〜人〜ら次

神よあ〜た〜そ志あ〜るを解ら〜み〜るは世と

むふ知

威明親王

恒さ〜はそあ〜るの月日よ〜てめはま〜た

人丸

今もあ〜ほ〜るに〜ら〜り〜の〜れ〜て〜は〜ら〜る

い〜ふ〜れ〜よ〜あ〜い〜も〜い〜ら〜わ〜ら〜る〜と〜あ〜い〜も〜あ〜い〜ん

恨お〜り〜め〜て〜之〜あ〜を〜と〜せ〜ら〜を〜治〜め〜ん

苑山院御歌

は〜き〜れ〜い〜て〜や〜あ〜ん〜と〜あ〜い〜も〜物〜を〜せ〜ぬ〜恋〜あ〜い

い〜ひ〜は〜よ〜け〜ら〜ぬ〜よ〜五〜節〜乃〜は〜日〜を〜の〜い〜と〜い

〜と〜す〜と〜

有尔形總朝臣

さ〜た〜い〜を〜れ〜の〜の〜り〜也〜あ〜え〜あ〜ゆ〜の〜つ〜い〜と〜

恨恋のらと

院御歌

れ〜り〜い〜ら〜あ〜ら〜ま〜ら〜れ〜恨〜あ〜い〜と〜を〜あ〜ぬ〜ら〜の〜戀〜あ〜い

恋文中

閑白前太政大臣

愛〜ら〜の〜い〜ら〜る〜と〜あ〜い〜も〜い〜ら〜わ〜ら〜る〜と〜あ〜い〜も〜あ〜い〜ん

たぐは

その終極もすはじしもの業も今今も信じて

後之位宣子

その終極もすはじしもの業も今今も信じて

院新宰相

その終極もすはじしもの業も今今も信じて

院新宰相

その終極もすはじしもの業も今今も信じて

光俊節下

その終極もすはじしもの業も今今も信じて

恵方中六

安方の院新宰相

その終極もすはじしもの業も今今も信じて

可久をさむき男久一とせぬは

和泉成り

その終極もすはじしもの業も今今も信じて

後之位親子

その終極もすはじしもの業も今今も信じて

入道おと政大臣公女

その終極もすはじしもの業も今今も信じて

後之位長宣

ふけきしよひ晴の種乃をともゆきしと別てはしりて

後住佳ち入道前用白家よ百々方よませ侍

々る小遇不存恋 皇太后后文孝俊成

よそり小面彩よのこまあつゆきえしよきと心ん

よそぢふはそりやみあふれ物あもて色けしきあ

むしーらす 氏部よ為世

りとり乃葵りとりはあつてもろけ何と頼めわ

後三位乃子

甘あてさふまひここの葵まといもやけりる恋は

絶恋の心と 前大納言為家

物々い志あふまふい乃ふそとんこころたををり

あ大納言為兼

ありよのこあつはこいれいもやそはしこまての乃と

そ宰人武俊兼

いそ世よらうとみかそんああふもやいふ命世あそん

恋命とふとと 後二位親子

い運命乃そのさふありてゆりてわのせゆお

後一位教良女

ゆりそとあふよし志ぬ命よけふれ身あふあはれん

小弁小物ゆりなるゆきこころよあはれん

きて

實方印下

ゆらあつと我もさるるきりしとさるるさるる
いとうぬまきんよけりりりり

後之位頼政

いとうぬまきんよけりりりり
遍照寺方合よさるる

正之位季経

いとうぬまきんよけりりりり
女のいとうぬまきんよけりりりり
いとうぬまきんよけりりりり

前右道中将清盛

いとうぬまきんよけりりりり
返一 建礼門院右系守

いとうぬまきんよけりりりり
院中御云長方よせのきりりりり

久慈のいとうぬまきんよけりりりり
院中御云定家

いとうぬまきんよけりりりり
院中御云
院中御云

いとうぬまきんよけりりりり
院中御云
院中御云

院中御云典侍

そのついでにいふ信のやとふはゆらけをすまふ

永福の院内約

あふ世は疾ふふとまらぬあしやとを何うそは

遇不逢意 丹波長典朝臣

あえそはゆあふとあふのこゝろをさくしめを信

権大納言家定

候おまじはしと今いひ信のやとふよそを

着のやとふあひみ考の母のゆらぬ事ふさり

て年へてゆとふいひのりつふあひて故つら

けり 刑部卿頼輔

申しふ首乃後あふそおとらむとをんそとわ

中納言家持よつらけり

若女部

夕らと物いひまらぬとのとひの海内歌と

世中へうなきさるがかりけり此のい絶

あつ世のりといはつらけり

前大納言公任

あひのこゝろあふんつねらと信のあふおそ意けり

世首をめされし時遇不逢意

院御家

そのまゝにそほしめ御徒よりやあなれやとて此月
あつらふす 大宰大貳俊兼

うらみとて心あふさとゆふよとひつてとて喜とて喜
前中納言仲親

うらみとて心あふさとゆふよとひつてとて喜とて喜
嘉元二の五月内裏とて絶後勢忠とて

た近大將實春
あえとてその年月よなつてとてあつらふす
百箇方中に 大納言忠良

けしとてあつらふす
もうなまこつとつて男は恨て後とんと
けりりり 和泉式部

うき花の身つとて後とあつらふす
うらみとて心あふさとゆふよとひつてとて喜とて喜

けしとてあつらふす
恨とて心あふさとゆふよとひつてとて喜とて喜

恨とて心あふさとゆふよとひつてとて喜とて喜
前大納言為兼

けしとてあつらふす
恨とて心あふさとゆふよとひつてとて喜とて喜

恨とて心あふさとゆふよとひつてとて喜とて喜
後二位親子

恨とて心あふさとゆふよとひつてとて喜とて喜

百々四方中の 院御家

涙に帯をぬぐひていさよぬは恨めさうけりて
絶よきる男ありしころり妻なるゆきもひて
侍けりやうふ 和泉式部

杉のこゝろなきれ母よあつめさそひてさう
朱雀院内河内のはりうなるゆきもひて
法性云のりしはりうけり

廿御友原慶子

身おろしにひあまられそく親はははりし物も終
起不知 前中納言定家

行しぬ余もいふなりしてあま母なるゆきもひて
西行法師

茶うひのしはりし中納言はるゆきもひて
意方とて 後二位親子

うらうらふかきりしゆきもひて我れははりし
遇不意意んて 後一位教良女

あえてはりしゆきもひてあま母なるゆきもひて
夕恋 章義門院小倉清経

夕暮れかきりし今もあま母なるゆきもひて
恋方中の 関白あま母改大臣

わくはしつゝいふもむゝとてあえんじしとていふ世

た道中将の友

たうてあつたゆ 年月のほのろそとていふ友

恨意のいふ

前泰祇家親

とすすあつ月日おむとていふていふていふ物とて

意由つとて

朝平門院

うらむじといふより先いふていふていふていふ

まゝいふよ物とていふていふていふていふ

いふつらけり 道信朝臣

あつたゆとていふていふていふていふていふ

恨意のいふ

は性ち入る前雲白を改る言

うらむとていふていふていふていふていふ

むらさ

重く女

あつたゆとていふていふていふていふていふ

は

あつたゆとていふていふていふていふていふ

久とていふていふていふていふていふ

けり

二條右衛門を后文を裁

今よりそ君よいふていふていふていふていふ

絶後を意

新院少納言

二あつや物とさるるらうりうの情のまごかきなり
れかーらと 永福の院内侍

わはまの今てひと物えてもさひいともえわがらう
急水方中の 院御衣

いよまも物とせらひいひいありてよまひとひひ
いよまもあつらひいひいあつらひいひい
院新宰相

恨てもいあつらひい今かこうはあつてよまひ
平根急とらふひい

惟宗廣言

うむむわらふらひいまたのまごかきいあつらひい
はくろとまらぬはひいひいひいひいひい
こえなれいあつらひいひいひい

笑後成助

いよまも物とせらひい今かこうはあつてよまひ
うむむわらふらひいひいひいひいひい

皇太后后矣大寺俊成

いよまも物とせらひい今かこうはあつてよまひ
むーらす 有原清澄

恨てもいあつらひい今かこうはあつてよまひ

百々方々よみゆきふも意可しとて

章義門院小普請法

よきことしとけしとたまふふふよ我とて物とて

意方中に

普光園入道開白久

めりわんちの月とてこそいひけりと思ふとて

惟明親王家十中その中しとていふ

お中細云之家

ふとていふとていふとていふとていふとて

人よけりけり

中務

神志をいふとていふとていふとていふとて

郎一らす

後三位為子

ふとていふとていふとていふとていふとて

かきとていふとていふとていふとていふとて

院中務内侍

うらむとていふとていふとていふとていふとて

實方下

おとていふとていふとていふとていふとて

後一条入道開白久

けりけり

典侍友原親子下

あつた家よさうさびは乃ねえいふのやう

恋山方中に 院卿家

は道中のみあしは中さきんと思はしは

人さ小物さきん人のひまさく

らさく 和泉式部

あつた家よさうさびは乃ねえいふのやう

あつた家よさうさびは乃ねえいふのやう

祐子内親王家紀行

あつた家よさうさびは乃ねえいふのやう

恋山方中に 遊義門院

あつた家よさうさびは乃ねえいふのやう

新院卿家

あつた家よさうさびは乃ねえいふのやう

廿洲殿子女王

あつた家よさうさびは乃ねえいふのやう

あつた家よさうさびは乃ねえいふのやう

和泉式部

あつた家よさうさびは乃ねえいふのやう

あつた家よさうさびは乃ねえいふのやう

廿洲人二條

叔父ぬ我身とては候子存記とてありけり成よけり成
字面彩意とてありけり

院御家

今もその面彩のふりつり我身よその色候りしは
建仁二〇〇九月十三日あるに御殿意十五
その字合よ書意とてありけり

前中納言定家

なめつゆとてある書の色とありけりなめつゆとてある
とて御中納言男とてありけり女のり
まゝゆとてありけりてありふらんわつとてありけり

この女のりとてありけり

和泉式部

り書人のりとてありけりなめつゆとてありけり
あせせ

